

令和5年度 第3回 指宿市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

1. 開催概要

(1) 日 時：令和5年12月21日(木) 13:30～15:30

(2) 場 所：指宿市市役所北側別館2階 講堂

(3) 出席者：22名（敬称略）

鹿児島大学 名誉教授	井上 佳朗
鹿児島交通株式会社 常任取締役	石田 洋介
山川タクシー 支配人	水流 美紀子
九州旅客鉄道株式会社 鹿児島支社 副支社長	前田 秀作
種子屋久高速船株式会社 所長代理	永谷 真純
株式会社なんきゅうドック 代表取締役	今村 勝博
公益社団法人鹿児島県バス協会 専務理事	鳩野 浩一郎
一般社団法人鹿児島県タクシー協会 指宿地区タクシー支部会 支部長	別府 竜人
指宿市自治公民館連絡協議会 会長	西村 甲一
指宿市自治公民館連絡協議会 副会長	岩本 一宏
指宿市自治公民館連絡協議会 副会長	中川 堅治
国土交通省九州運輸局鹿児島運輸支局 首席運輸企画専門官(企画調整担当)	南 崇
国土交通省九州運輸局鹿児島運輸支局 首席運輸企画専門官(輸送・監査担当)	西村 英明
指宿警察署 交通課長代理	福元 亮介
鹿児島県南薩地域振興局建設部 建設総務課長	下村 克浩
指宿市 総務部長	渡部 徹也
指宿市 産業振興部長	野元 伸浩
指宿市 健康福祉部長	上川床 聡
指宿市 建設部長	高田 博憲
指宿市 山川支所長	中島 裕一
指宿市 開聞支所長	山下 秀一
国土交通省九州運輸局 交通企画課長	有馬 康子

2. 議事

(1) 乗合タクシー鰻線の時刻表改正について

(2) 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業

(フィーダー補助・計画策定事業)の事業評価(自己評価)について

(3) 指宿市地域公共交通計画(素案)について

①素案の内容について

②今後のスケジュールについて



3. 会長挨拶

- 会長：年末の大変忙しい時期にご出席いただきありがとうございます。冬の寒さやインフルエンザなどの流行により、公共交通の必要性を一層感じているところである。限られた時間ではあるが、みなさんから忌憚ないご意見をいただきながら会議を進めていきたい。

4. 質疑応答

【会議説明】

(1) 乗合タクシー鰻線の時刻表改正について

- 質疑なし
- 賛成多数により承認

(2) 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助・計画策定事業）の事業評価（自己評価）について

- 会長：P. 4に記載のあるABC評価について、それぞれの意味を説明していただけるか。
⇒事務局：補助金の交付申請をした際に掲げた目標値を上回っている場合はA評価、下回っている場合はC評価としている。
- 西村委員：評価は本協議会内で図っていただくものである。A評価は、計画された内容が適切に実施された、C評価は実施できなかったということになる。また、例えば計画目標を2つ掲げていた場合に、1つは達成したが1つは未達成であるという場合にはB評価が用いられる。
- 賛成多数により承認

(3) 指宿市地域公共交通計画（素案）について

- 中川委員：タクシーについて、よくわからないので説明をしていただきたい。
⇒事務局：本市で運行している予約型乗合タクシー「あいタク」は、あくまでもバスの補完として運行しているものであり運行日や運行時間が決まっている。また、複数人が乗り合わせて目的地まで向かう。これに対し、タクシーは運行日や時間の縛りがなく電話をすれば来てもらえるという点が違いである。また、運賃についても「あいタク」はバスの補完であるため、通常のタクシーのように数千円かかるといったこともない。現在は片道500円が最大値である。
- 中川委員：利用状況はいかがか。
⇒事務局：令和4年度の利用状況は令和2年度の1.8倍程度になっている。
- 会長：例えば、付加価値を付けるという意味で、「あいタク」乗車時にポイントを付与するということも考えられる。
- 会長：昨今、運賃の支払いが電子決済が当たり前になっている。P. 108の「市内観光地の周遊環境の改善」やP. 110の「多言語対応」などに関連し、電子決済の導入といった項目は計画内に盛り込まなくてよいのか。
⇒事務局：電子決済はあくまでも事業者が主体となり行うものであると理解しているため、現在は計画内に記載していない。電子決済における本市の現状としては、既に導入している事業者さんや、今後の導入を検討されている事業者さんもいらっしゃる。
- 別府委員：数値指標3-3の「公共交通の沿線イベント開催回数」についてだが、市が主催のイ

イベントは毎年実施されているのに加え、観光協会や民間主催のイベントも開催されている。現状の目標値「3回」は少ないのではないか。また、数値指標2-2の「公共交通に関する多言語化対応実施件数」については、現場では既に外国人対応はなされていると考えるが、何か新しい取り組みがなされた際に1件と数えるのか。

⇒事務局：数値指標3-3の「公共交通の沿線イベント開催回数」については、委員からのご意見を踏まえ再考させていただきたい。なお、目標値は現状よりも高くすることを考えている。数値指標2-2の「公共交通に関する多言語化対応実施件数」については、令和5年4月に鹿児島交通さんが発表された時刻表について多言語化がなされていることを確認したため、現状値を1件としている。この他にも既に実施されているものがあれば現状値の中にも含めたい。併せて、目標値については現状値よりも多くしたいところであるが、具体的には、デジタルサイネージの活用や、HPでの案内などを想定している。

■会長：今の説明であると、件数は「言語の数」ではなく、「対応の数」をカウントするという認識でよいか。

⇒事務局：その通りである。具体の数値目標については会議後に再度検討し、改めて提示させていただきたい。

■中島委員：現状維持を目標とする指標があるが、これは増やすことはできないのか。少子高齢化や人口減少を踏まえると難しい面もあると思うが、少し寂しく感じる。

■西村委員：先ほど話のあったキャッシュレス（電子決済）について、県内でもキャッシュレス化の動きが進んでいる背景なども踏まえ、実施主体が事業者であっても協議会として後押しするというのであれば計画に追記してもよいと考える。多言語化対応については、ある程度主要な言語には対応する必要があると考える。国の補助支援もあるため、要望があれば言うてほしい。どの取り組みも、事業者だけでなく、さまざまな主体が一緒になってやっていくということで計画を作っている。現状維持を目標としてよいのかといった話については、どの自治体も現状を維持するにも厳しい状況であり、その中で現状維持を掲げることに意味があると考ええる。

■別府委員：観光振興の観点からも、キャッシュレス（電子決済）について追記してよいのではないか。インバウンドを後押しするという意味でも、MaaSなどの取り組みも盛り込んでほしい。

⇒事務局：再考する。

■渡部委員：昨今、ライドシェアの解禁が話題になっているが、指宿市における考えを計画に盛り込む必要はないか。

⇒事務局：P.112の「まちづくりと一体となった公共交通体系の構築」において、「持続可能な公共交通の実現のため、さまざまな移動手段の導入も検討する。」と書かせていただいている。これが、自家用有償運送やライドシェアなどを包含している表現である。市としては、ライドシェアの導入検討が進んでいることも把握しているが、それだけにとどまらず、さまざまな可能性に柔軟に対応できるようにしていきたい。

■会長：計画の中には取組イメージがいくつか掲載されているが、現在行われているものも含めて掲載しているのか。

⇒事務局：既に実施しているもの、今後導入したいと考えているもののどちらも含めた表現とな

っている。

- 有馬委員：先ほどから議論になっているキャッシュレスなどの記載は、追記していただいてもよいと考える。実施主体は市・協議会・交通事業者が連携して取り組んでいくという認識である。本計画をマスタープランとして考えていただければよい。現状維持を目標とする指標については、「本来であれば下がっていくが、こういった方法で現状維持を図っていく」という整理をしていただけると分かりやすい。
- 賛成多数により承認

【その他】

- 石田委員：鹿児島交通においては、2024年1月1日よりダイヤ改正を行うこととなった。山川・棧橋までの路線をたまたま箱温泉まで延伸する。そのほか、延伸等はないが時刻変更が行われる路線もある。また、人件費や燃料費の高騰などの影響があり運賃を改定させていただくこととなった。今後も市と協議しながら多少の変更をさせていただく可能性があるため、ご了承ください。
- 前田委員：2023年11月30日の発表にもあるが、ローカル線を取り巻く状況については厳しい状況が続いている。大量輸送機関としての鉄道の特性を活かしていない線区については、将来を見据えた議論が必要であると考えており、指宿枕崎線の指宿～枕崎間においても、将来のあり方について、地域の皆様と改めて議論させていただきたいと考えている。存廃を前提におかずに、地域にとって最適な公共交通の活用はどのようなものかを膝を突き合わせながら建設的な議論をさせていただきたい。

5. 閉会